

平成22年第7回教育委員会定例会会議録

- 1 開会宣言 平成22年6月30日(木) 午後1時30分
- 2 場 所 三条市役所栄庁舎 201会議室
- 3 出席者 長沼委員長、坂爪委員長職務代理委員、渡辺委員、須佐委員、松永教育長
- 4 説明のための出席者
古川教育部長、池浦教育総務課長、高橋学校教育課長、星野子育て支援課長補佐、嘉代小中一貫教育推進室長、金子生涯学習課長、梨本三条共同調理場長、中村学校教育課統括指導主事、西山小中一貫教育推進室主幹、遠藤教育総務課長補佐、阿部教育総務課庶務係長
- 5 傍聴人 2人
- 6 議 題
 - (1) 前回会議録の承認について
平成22年第6回教育委員会定例会会議録
 - (2) 報 告
報第1号 平成22年度第1回三条市学校給食共同調理場運営委員会会議録について
 - (3) その他
 - ア 平成22年度「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の推進への取組」に係る委託事業(文部科学省)の決定及び研究校の指定について
 - イ 教育に関する事務の点検及び評価について
 - ウ 第一中学校区小中一体校建設の検討状況について
 - エ 一ノ木戸小学校及び裏館小学校改築の検討状況について
 - オ 次回教育委員会定例会の日程について
- 7 審議の経過及び結果
 - (1) 前回会議録の承認について
長沼委員長から平成22年第5回教育委員会定例会会議録について諮り、承認と決定
 - (2) 報 告
報第1号 平成22年度第1回三条市学校給食共同調理場運営委員会会議録について
梨本三条調理場長から説明
質疑に入る。
(渡辺委員)

未納の児童生徒について学校側の対応が非常に大変だということはよく分るし、荻根澤委員の考えに同感する部分も多々ある。教育委員会としての具体的な対応策も必要なのではないかと思うが、いかがだろうか。

(梨本三条調理場長)

給食会計には給食費の取り扱いについて、公会計と私会計の2つがある。新潟県内では大多数の市町村が私会計と聞いている。そんな中で、各市町村とも学校側が保護者に対して面談等、様々な対応していると聞いているが、なかなかうまく解決策がないのが実態だ。

教育委員会としても、様々なものを考えながら、ほかの市町村の動向等も見極めながら、いい対策を見つけていきたいと思っている。今のところはなかなか難しいというのが現状だが、何とか解決ができるよう努力していきたい。

(長沼委員長)

どこの学校でも必ず担任の先生が未納の保護者に催促等するのか。

(梨本三条調理場長)

当然、担任の先生もあるかと思うが、保護者に学校へお出でいただいたときに教頭先生などが面談をするというケースがあると思う。私どもとしては、担任だけではなく、学校全体でとらえていただき、1人の先生の負担にならないようにと話をしている。

全員異議なく承認と決定

(3) その他

ア 平成22年度「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の推進への取組」に係る委託事業（文部科学省）の決定及び研究校の指定について

嘉代小中一貫教育推進室長から説明

質疑に入るが質疑なく、質疑終結

イ 教育に関する事務の点検及び評価について

実施方針・スケジュールについて池浦教育総務課長から、続いて事後評価シートについて嘉代小中一貫教育推進室長、高橋学校教育課長、星野子育て支援課長補佐、金子生涯学習課長からそれぞれ説明

質疑に入る。

(須佐委員)

全体的に評価は、Aに傾いていて非常によろしいと思う。ただ、気になるところが、学力が20年度、21年度と年々下がってきて、今年も0.7ポイント下がった。また、来年下がったら50を切ってしまうことだ。

やはり根本的に、中学生のころは学力低下の原因となるものがあると思う。先生方は非常に一生懸命努力されていると思うし、教育委員会事務局も努力しているのと思うが、実際に数字として年々下がっている。逆に22年度の目標を上げていただき、それに対して策を講じていただきたい。この町の将来にとっても、子どもたちにとっても、

もう少し学力を上げるような何かをやっていただければなと思っている。

部活で体を鍛えて、体力は上がっている。それが逆に学力の方に影響を与えているようにも聞く。ぜひとも文武両道で、22年度の数字が上がることを期待しているのでよろしくお願ひしたい。

(高橋学校教育課長)

先生方も一生懸命頑張っているし、私たちも応援をさせてもらっているが、どういうわけかこの市町村でも見られるのは中学校の1年生で一旦下がり、そこからまた2年生、3年生と上がっていく。中学校1年生の一時的に下がってくる部分は、小中一貫教育の考え方でも一番大事にしているわけで、その落ち込みをなるべく低くしていくように、落ち着いて学習に集中できる環境を各学校の先生方が作っていくことを大事にしながらか進めていきたいと思っている。

(長沼委員長)

先日の推進協議会で、中学校1年生の学力のことで、中学校1年生にきて落ちるのはなく、問題は小学校のどこかにあると、今小学校、中学校の先生方が話し合ひ、やっと原因が分ってくるような気がするという話をしていた。やはり、中学校で出てきたというだけで、根は小学校の段階からあるのではないかと、数学のお話だったかか出ていた。

授業を見せていただいても、先生方は本当に一生懸命しているが、完全についていけないと言う子ども、それからまた十分力が有り余っているなという子どももおり、全員を一緒には難しいだろうと思ひながら見せてもらった。

小中一貫の基礎充実期の4年間で、中学校に行つてからの落ち込みを何とか防げるような手だてがあるのではないかと私はとても期待している。

(高橋学校教育課長)

今まで、ややもすると小学校の先生は、小学校の6年生までのことが頭の中にあつて、この後中学校に行つたらどうなるのだろうと思ひます。中学校では、小学校でどうこうよりも、中学校1年生から新たに始まるというような意識があつたかもしれない。

今は違ひが、小学校からは中学校の先生方の教え方は端的に言えば乱暴だという話があり、中学校の先生は小学校のように丁寧にはやつていられないという話があつた。小中一貫教育の考え方の中で、お互いの切なさ、難しさを分かつ合おうという雰囲気、少なくとも三条市内の先生方は変わつてきた。

中学校の先生は、小学校の先生方の丁寧さに学び、丁寧にしていることについてどう受け継いできたらいいのか、小学校の先生は中学生の高校入試というハードルにあつて、そこまでどうしても行き着かなければいけないという中学校の先生方の切なさを理解し、小学校の授業がどうあつたらいいのか、本当にお互いの、のりしろの部分が生まれつつあるというのが今の現状だと思ひます。そういう中で必ず学力が向上する日があると私は考へている。

(渡辺委員)

9ページ、10ページのいじめの関係についてだが、昨今の全国的な報道を見ていると、

今までなかったようないじめが非常に多発していると思う。自殺に追い込まれるような、非常に極端な事例が以前に比べて多く発生しているような気がしてならない。それともう一つ、特に中学生の対生徒、対教師の暴力行為も非常に増加している傾向があるという報道がされている。

三条管内でいたましい事件が無いことを願うが、教育委員会で中学校に対する指導等があれば教えていただきたい。

(高橋学校教育課長)

今日も岐阜県のある中学校の非常にいたましい事件、許せないような事態が新聞で紹介されていた。私たちのこの三条の中でそういう報告をしなければならない例は今のところないが、暴力行為等について、決して安心のできる状態ではない。暴力行為等について言うと、特定の子どもが何回か繰り返して件数が増えたというのが昨年は事実として状況があった。

不登校についても減らない。合併前は80辺りの数字のとき、とても多いなと思ったのが、今は100の大台を超えてしまっているという状況である。例えば、1人減ったとか2人減ったということは、私たちとしてはとても嬉しいことだが、まだ1人でもいる限り、その子にとって、その親にとっていかに切ない話であるかということ肝に銘じていかなければいけないと思う。

学校でみんなこの家の子どもたちも安心して楽しく1日を笑顔で過ごしていかなければいけないのに、不当ないじめ等があった場合には本当に許されないことだと思っている。そういうことが1件でも減るように私たちも取り組んでいきたいと思っている。委員からもぜひまた指導をいただきたい。

(渡辺委員)

小中一貫教育は、そういういろいろな問題の解消とともに予防という点からも、学力とも関係してくると思う。そんなことから、やはり小中一貫教育を進めていくことがより求められるのではないかと思う。

(高橋学校教育課長)

そのとおりだと思う。例えば、小中一体型の学校が一体校であれば、仮に中学生が小さな子どもを粗相に扱うような場があれば、そのことをとおして小さな子どもを大事にする指導がすぐにできる。でも一緒にいなかったら、あるとき初めて小さな子どもと大きな子どもが会うことになり、そのときに指導できるかは自信がない。

小さな芽のうちに見つけてすぐに指導する。そして、小さな子どもを大事にするとはこういうことか、大きな子どもに対して尊敬の念を持たなければいけないということが、そばにいることによって確実に分ってくる思う。

そういう意味で渡辺委員の指摘のとおり、小中一貫教育の一体型、連携型の中で分かるということがあると思うので、特に大きな子どもにとって弱い者を大事にすることは、どういうことかを考えるいい機会であると私は思っている。

(長沼委員長)

いじめの定義が変わってから、それがいじめなのと感ずることがある。例えば、背が

高いのねという、そんな言葉でも過敏に感じて傷つくことがあるかもしれないが、そんなことで傷ついてはいられないと、大人数の中でいろいろな意見を聴いて成長していくことが大事だと思う。

特に女の子の間では、本当にいい子であればあるほど、お友達同士の言葉も気をつけ、いじめと取られるような非難がましいことは一切言わない。しかし、もう少し言葉でも動作でも自由にふるまい、間違ったら間違っただけで謝る。それが学校の良さだ。もう少し強い心が持てるようにあってほしいと思っている。人数が増えたり、環境が変わったりというのはそういう点でもいいかなと思う。

(高橋学校教育課長)

例えば、人数が少なかったら、教師は教師の良心の中で子どもに対してはそうしているかもしれない。人数が多ければ、早い話がバケツの中にイモを入れてガシャガシャとやっているかもしれない。どちらがいいかということ、私は注意深くイモ洗いをした方が子どもにはいいと思う。それは一概に言えない部分があり、その結果は検証することができないところだが、今委員長が言われたようなことをとても大事にすることが必要だと私は思う。

(松永教育長)

点検及び評価の一覧表から今説明を受けた中で、各課それぞれ一生懸命やっているということで、大変素晴らしいと感謝している。

目標値の設定等でCという評価もあるが、これは先ほど担当の課長が話をしたように、Cの見方もいろいろあるので、それはそれなりの評価をしていきたいと私は思っている。とりわけ学力やいじめ不登校の問題など先ほどから話題になっているが、今三条市が取り組んでいる小中一貫教育、あるいは小と小の連携という形でのつながりを深めていくことが、子ども同士も教員同士もそれぞれ成長していく大きな要素を持っているだろうと思っている。

成果を単なる数値だけでなく、実質的に子どもたちが安心して学校で勉強できる環境づくりに頑張っていきたいと思っている。活躍や努力を期待している。

ウ 第一中学校区小中一体校建設の検討状況について

嘉代小中一貫教育推進室長から説明

質疑に入る。

(坂爪委員)

この前の検討委員会で私の横の女性が、毎回検討委員に顔を出しているが、これで決まりでしょうかと私に質問されたので、いろいろな方から御意見をいただき、そしてまた施設検討委員会で検討し、最終的には市議会だろうかと話した。

最終的にどこでどういうふうに決定されるのか、そこら辺りを少し説明してほしい。

(嘉代小中一貫教育推進室長)

基本的には第一中学校区の小中一貫教育推進協議会の中に施設検討部会を設置させていただき、その中でまず施設検討を行って部会案を決定いただく。その部会案を元に

しながら推進協議会、あるいは全市全体の立場で意見をいただく小中一貫教育検討委員会における検討後、当教育委員会の承認をいただき、「基本設計」として正式に表に出せるのではないかなと考えている。

現在、関係者の意見をいただきながら、施設検討部会案をとりまとめているというのが現在の過程ではないかと思う。

そういう中で、現在は業者と市と教育委員会と、それから地元の関係者、学校関係者、地域関係者が集まって皆様方に正式に御提示する基本設計案を作っている。その案が現在ほぼ固まりつつあるので、更に皆さんの御意見を聴きながら進めていくことが現在の状況であると認識している。

エ 一ノ木戸小学校及び裏館小学校改築の検討状況について

池浦教育総務課長から説明

質疑に入る。

(長沼委員長)

17番のクールチューブとは何だろうか。

(池浦教育総務課長)

裏館小学校の設計業者から、1つの提案としてあったもので、地下にチューブを通し、地下の安定した温度の空気を常に校舎内に循環させるというシステムだ。これは美術館などでよく取られている手法だと聞いている。どこまで裏館小学校に配備するかは今後実施設計の段階で詰めることになっている。

オ 次回教育委員会定例会の日程について

池浦教育総務課長から提案があり、委員長が諮り次のとおり決定する。

日 時 平成22年7月26日(月) 午後1時30分

会 場 三条市役所栄庁舎 201会議室

8 閉会宣言 平成22年6月30日 午後3時32分

三条市教育委員会会議規則第38条及び第39条の規定により、会議の顛末を記載してここに署名する。

平成22年7月26日

三条市教育委員会

委員長 長沼 礼子